

共生力

HP: <http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

Tel: 03-3222-4190 Fax: 03-3222-4199

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-3-9 第2太陽ビル 301

発行人: 黒田文男

= 8月5日 =

公益財団法人に認定！



黒田代表理事

2010年8月5日、本協会は、「公益財団法人」に認定され、8月9日より『公益財団法人日本中国国際教育交流協会』へと移行いたしました。

2009年12月、それまでの財団法人は「特例財団法人」となり、「一般財団法人」として進むのか、「公益財団法人」として進むのかを決定しなければなりません。当然「公益財団法人」は移行申請基準も厳しく、事業内容の公益性が厳しく問われます。

本協会は、制度検討委員会を中心に慎重な審議を進め、国際教育交流事業の持つ公益性と現代世界における意義を追求し、「公益」法人をめざしてきました。創立者田中一郎先生の理念は、国の境なく世界の子どもにもふさわしい教育をめざしており、役員、顧問、評議員の考えもまた、我々の進む道は、「公益財団法人」以外にはないと判断しました。

今後は、「公益財団法人」として、不特定多数の利益に値する事業を、これまでより以上に追求していかなければなりません。なお、移行に伴い、黒田理事長は「代表理事」、山中・吉田両常務理事は「業務執行理事」へと名称を変更いたします。これまでの関係諸氏のご労苦に感謝すると共に、今後とも皆様の一層のご支援を心からお願いいたします。



2010年易県音楽教師養成セミナーで挨拶

第2回易県音楽教師養成セミナー開催

120名参加で活気と期待！



第2回音楽教師養成セミナーは7月26-28日の3日間、易県教文局で、小中100校から120名以上が参加して開催されました。昨年は1泊2日でしたが、今回は期間・内容を充実させて開催されました。音楽教師は熱心に講義を受け、昨年を上回る成果をあげ、今後への大きな期待が生まれました。開会式では易県副県長、宋慶齡基金会、当協会からそれぞれ挨拶が行われました。

主催者の易県郭副県長から次のような歓迎の挨拶がありました。「易県は、河北省西部に位置し、人口56万人、総面積2534平方Km、70%は丘陵地帯で、河北省貧困救済開発事業が行われています。現在、300の学校、90000名の学生、6180名の教職員がおります。共同プロジェクトにより、教育の成果は確実に上がっていることから、今後の期待は大きいものがあります。」

宋慶齡基金会プロジェクト馬副委員長は、当協会の支援を紹介しつつ、農村における基礎教育の重要性を指摘しました。また、「共同プロジェクトにより、教育設備が整えられただけでなく、精神的な面で子どもたちの励みとなり、勉強意欲を高める環境づくりができました。教師にとっても指導力の向上が見られ、社会的によい影響が生まれました。」と感謝の意を表されました。

黒田理事長は「昨年初めて音楽教師養成セミナーを開催したところ、参加希望者が多かったため、今年は内容・期間を拡大して行うことになりました。私たちが音楽教育の充実に取り組む理由は、音楽は歴史や文化の理解に欠かせず、また言語教育の推進という点からも基礎的な教科であることによるものです。今回のセミナーが、子どもたちの教育水準の向上、また未来の日中友好に寄与することを心から祈っております。」と述べました。

最後に受講者を代表して馮さんから挨拶がありました。「職場の音楽教師の要望に応え、規模と内容を充実して第2回を開催していただいたことに感謝します。めったにないいいチャンスを与えていただきました。今後も是非続けてください。私たちの友情が真水のように清くすんで流れるよう願っています。」

日中教育交流の脈々とした流れが、このような形で日中の教職員と、子どもを結びつける水路に発展したことを大切にしたいものである。

★宋慶齡基金会ホームページ公益事業をご覧ください。

http://www.scflf.org/jggt/201007/t20100730_18119.htm

★★★ 参加者代表との懇談会 ★★★

農村の教師にとってこんなチャンスはめったにない



午前の授業後、参加者6名との懇談会が開かれました。

参加教師 劉曼(易県第3小学校)、李麗媛(西山北郷精華希望小学校)、白雲(西陵中学校)、劉燕亭(易県実験中学校)、劉研(易県第二中学校)、劉亜鈴(易県第一小学校)

発言者 黒田理事長、山中常務理事、馬霄飛宋慶齡基金会基金部、許俊良易県教文局長、白潔(指導教員)

参加者から以下のような意見が出されました。

- ① 自分の不足している点に気づくことができた。
- ② 農村の教師にとってこんなチャンスはめったにない。
- ③ 音楽は受験科目でないので、生徒の興味が薄い。
- ④ ピアノの弾き方、子どもへの指導方法ももっと教えて欲しい。
- ⑤ 歌い方、踊り方、音楽に対する感性を養っていききたい。
- ⑥ 即興合奏を習ったが、大変役立つと思う。
- ⑦ 日本の音楽教育にも触れてみたい。
- ⑧ 貧困県の生徒でも芸術への感性を育てたい。

指導教員の白先生は次のように述べられた。

「易県の教師は真剣で純朴、大きな熱意が感じられました。参加者のレベルはまちまちです。北京では、ただ一つのことを教えるのではなくて、立体的な教え方が主流です。北京で定年を迎えた先生方に声をかければ、易県にボランティアでも行きたがる先生が多いと思います。」

許局長は「セミナーは、本県の教育にとって影響の大きな事業です。協会の先生方の熱意が伝わり、素晴らしい理念もたらされました。音楽は人生の中でも大切な科目です。来年のイベントまでにも何回かこういうチャンスをつくって欲しい。白先生の勇気のある発言にも感謝したい。」と感想を述べました。



寄贈した電子キーボードを使って

な科目です。来年のイベントまでにも何回かこういうチャンスをつくって欲しい。白先生の勇気のある発言にも感謝したい。」と感想を述べました。

○●△■協会短信■△●○

- 8月5日 内閣総理大臣より公益財団法人認定
- 8月9日 『公益財団法人日本中国国際教育交流協会』へ移行
- 9月9日 会計監査
- 9月16日 第1回評議員会、第2回理事会
- 10月10日～16日 第15次訪中団
 - ・北京で中国教育国際交流協会と教育交流
 - ・河北省易県学校訪問、宋慶齡基金会訪問 ほか

宋慶齡基金会表敬訪問

「教育交流に経験のあるもの同士として、

共同分野を拡大していきたい」

7月27日、一行は北京の中国宋慶齡基金会を表敬訪問しました。会談には、黄躍金常務副主席、宋健連絡部副部长、劉穎連絡部通訳が同席しました。

黄常務副主席からは、次のような挨拶がありました。「貴協会との共同プロジェクトは、胡啓立主席との関係で始まったと聞



中央が黄躍金常務副主席

いています。宋慶

齡基金会は鄧小平名誉主席によって創設され、鄧穎超政治協商会議主席(周恩来夫人)、廖承志中日友好協会会長により礎が作られました。昨年、基金会は政府から「中華慈善章」を受け、最も影響力のある慈善プロジェクトと称されました。社会貢献を行っている全国934団体の中からベスト3に選ばれ、AAAAAのランクとなりました。今、中国世論は、50%に達した就学前教育に高い関心を寄せています。また、学校経営や管理について、北京の校長先生からは日本との交流希望があります。お互いの団体は公益団体として共通しています。教育交流に経験のあるもの同士として、交流を拡大していきたい。」と述べました。

黒田理事長は、「7月23日、当協会は公益法人の答申を受けました。貴協会との共同プロジェクトも公益事業として評価を受けたと思います。日本の教育も大きく変わってきています。中国と日本の教職員の交流を一層進めたい。」と応えました。

北京雑記

北京の地下鉄で

大発見している北京の地下鉄を初体験した。ホテルにほど近い「西単」から4号線に乗った。沿線には、北京大学、人民大学などがあり、車内には若者が多い。西単は新宿や渋谷を混ぜたような街で、若者で溢れかえっている。人混みに揉まれるように車内に乗り込むと、扉近くに座っている青年が立ちあがって、私に席を譲ってくれた。60過ぎの私にとっては、日本では稀な経験だ。目的地まで、13もの駅があるので大いに助かった。帰路、再び車内に乗り込むと、目の前に空席が一つある。あっという間に、小さい女の子の手を引いた若い母親が、子どもを座らせる。それを見ていた向かいの席の若者が、ずっと立って、私に席を譲ってくれた。瞬間、若者の笑顔と一人っ子政策が頭をよぎった。中国の現在と未来もまた、決めるのは青年・子どもたちだ。(正)